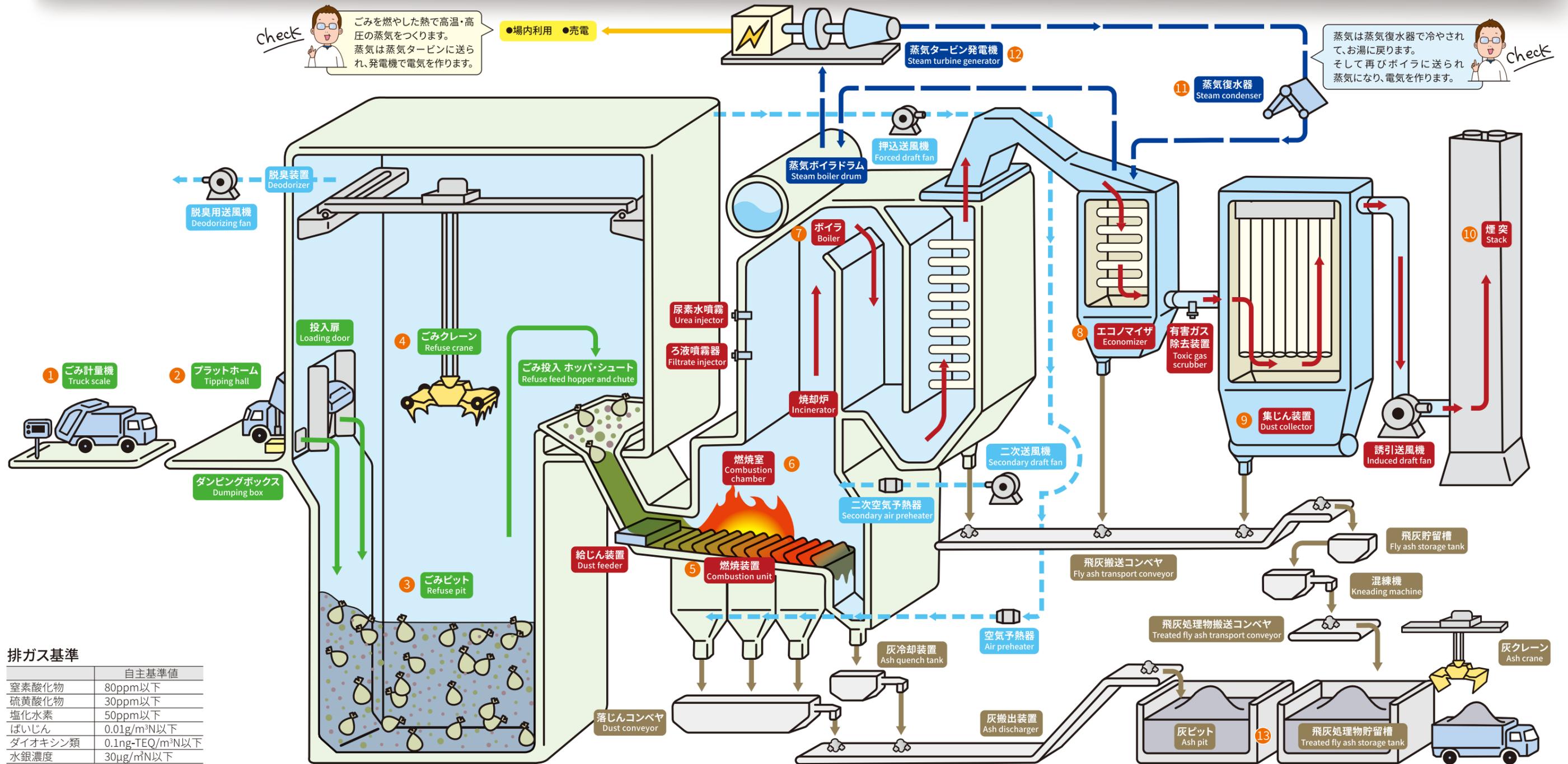


焼却の流れと設備

Incineration flow and equipment

高度なごみ処理技術によって、燃やすごみを安全に効率よく焼却する設備です。

This facility safely and efficiently incinerates combustible refuse using advanced refuse treatment technology.



排ガス基準

	自主基準値
窒素酸化物	80ppm以下
硫黄酸化物	30ppm以下
塩化水素	50ppm以下
ばいじん	0.01g/m ³ 以下
ダイオキシン類	0.1ng-TEQ/m ³ 以下
水銀濃度	30μg/m ³ 以下



燃やすごみの流れ

ごみピットに溜められたごみは、クレーンでごみ投入ホッパに入れ、焼却炉で焼却されます。焼却炉内では、湿ったごみを乾燥させてから850℃以上の高温で焼却され、燃え残りのないように、後燃焼装置で完全に焼却されます。

空気の流れ

ごみピット内の空気は、臭気と共に燃焼用空気として焼却炉に送られ、ごみの焼却に使われます。高温で焼却するため臭い成分は分解され、無臭の排ガスとなります。焼却炉停止時は脱臭装置を通すことで、臭気が外部へ漏れるのを防止しています。

排ガスの流れ

焼却で発生した排ガスは、ダイオキシン類の再合成を防ぐため、ボイラやエコノマイザで200℃以下の温度に冷却されます。その後、集じん装置で飛灰などを、ろ布で除去し、きれいになった排ガスは煙突に送られ大気へ放出されます。

灰・飛灰の流れ

焼却した後の灰は、水が満たされた灰冷却装置で冷却された後、灰ピットから場外へ搬出されます。エコノマイザや集じん装置からの飛灰も、薬品により安全に処理されて場外へ搬出されます。

蒸気・水の流れ

ごみ焼却の際に発生する排ガスの熱を利用して、ボイラで高温高圧の蒸気を作ります。この蒸気を使い発電機で発電し、施設内で使用します。余った電気は電力会社へ送られ、利用されます。